

University of Wollongong Research Online

Faculty of Law, Humanities and the Arts -
Papers

Faculty of Arts, Social Sciences & Humanities

1-1-2013

日本語を非母語とする日本学習者が書いたお礼の手紙の考察: Attitudinal resources expressed in Japanese thank you letters

Yumiko Mizusawa

Keio University, yumikom@uow.edu.au

Rowena G. Ward

University of Wollongong, roward@uow.edu.au

Follow this and additional works at: <https://ro.uow.edu.au/lhapapers>



Part of the [Arts and Humanities Commons](#), and the [Law Commons](#)

Recommended Citation

Mizusawa, Yumiko and Ward, Rowena G., "日本語を非母語とする日本学習者が書いたお礼の手紙の考察: Attitudinal resources expressed in Japanese thank you letters" (2013). *Faculty of Law, Humanities and the Arts - Papers*. 1197.

<https://ro.uow.edu.au/lhapapers/1197>

Research Online is the open access institutional repository for the University of Wollongong. For further information contact the UOW Library: research-pubs@uow.edu.au

日本語を非母語とする日本学習者が書いたお礼の手紙の考察: Attitudinal resources expressed in Japanese thank you letters

Abstract

This study explores how linguistic resources in Japanese thank-you letters enact interpersonal values using the Appraisal framework (Martin and White, 2005; White, 2001, 2002). The focus of this study is attitudinal accounts within the Appraisal framework. Although the original framework has been widely applied to English texts (Hood, 2004 etc.), it has not yet been applied to Japanese texts. The Japanese system of ATTITUDE has recently been developed based on an extensive analysis of evaluative expressions in the IWANAMI Japanese Dictionary, the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, and the Japanese Database of Individual Patient Experiences (Sano, 2011a). The data in this study comprise 11 letters written by intermediate level non-native speakers of Japanese. They were asked to write a thank-you letter to their host family to express their gratitude for their visit. Attitudinal resources in these letters will be identified and discussed.

Disciplines

Arts and Humanities | Law

Publication Details

Mizusawa, Y. & Ward, R. G. (2013). 日本語を非母語とする日本学習者が書いたお礼の手紙の考察.: Attitudinal resources expressed in Japanese thank you letters 日本機能言語学会第20回全国大会要綱: Proceedings of Japan Association of Systemic Functional Linguistics Volume 7, (pp. 47-56). Japan: Japan Association of Systemic Functional Linguistics.

日本語を非母語とする日本語学習者が書いた お礼の手紙の考察

Attitudinal Resources Expressed in Japanese Thank You Letters

水澤祐美子

Yumiko Mizusawa

慶應義塾大学非常勤講師

Keio University (Part-time Lecturer)

Rowena Ward

University of Wollongong

Abstract

This study explores how linguistic resources in Japanese thank-you letters enact interpersonal values using the Appraisal framework (Martin and White, 2005; White, 2001, 2002). The focus of this study is attitudinal accounts within the Appraisal framework. Although the original framework has been widely applied to English texts (Hood, 2004 etc.), it has not yet been applied to Japanese texts. The Japanese system of ATTITUDE has recently been developed based on an extensive analysis of evaluative expressions in the *IWANAMI Japanese Dictionary*, the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, and the Japanese Database of Individual Patient Experiences (Sano, 2011a). The data in this study comprise 11 letters written by intermediate level non-native speakers of Japanese. They were asked to write a thank-you letter to their host family to express their gratitude for their visit. Attitudinal resources in these letters will be identified and discussed.

1. はじめに

非母語話者は語彙・文法の選択肢が限られているため、話し言葉にせよ書き言葉にせよ正確な使用は母語話者に比べると難しい。お礼の手紙では、フォーマリティも高く、正確な語彙・文法の選択はもとより、敬語表現も必要となるため難しさは増す。これまでも日本語を外国語として学ぶ学習者の手紙を分析したものはあるが(宇佐美, 2010; 李, 2005 etc.)、日本語を非母語とする日本語学習者が書いたお礼の手紙を分析は希である。

そうしたなか、評価表現が必要とされるお礼の手紙の分析に役立つ辞書が言語資源協会より 2011 年に発行された。この辞書により、日本語の評価表現と価値基準の言語資源がまとめられ、学習者に対する提示が容

易になった。本稿では、『日本語アプレイザル評価表現辞書-態度評価編-JAppraisal 辞書 ver1.0』を分析手法として使用し、非母語話者が書いたお礼の手紙を、語彙とテキスト構成の両方の観点より分析し、その特徴を考察する。

2. 方法

お礼の手紙を分析するにあたり、データと分析方法を以下に詳述する。

2.1 データ

日本語の非母語話者が書いたお礼の手紙を分析した。具体的には留学生が海外研修中にお世話になった相手に宛てたお礼の手紙である。お世話になった相手は、留学中に滞在したホームステイファミリー、日本語を担当した先生、及び研修コーディネーターのいずれかとなる。図1は実際に書かれた手紙のコピーである。

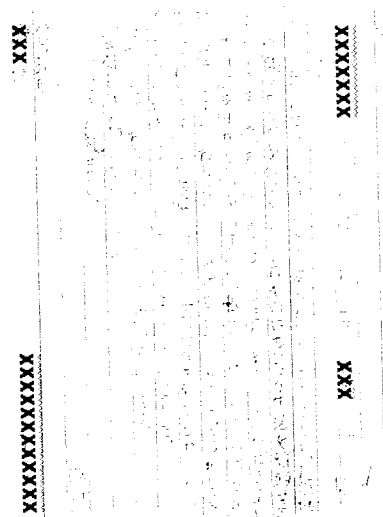


図1: 日本語非母語話者が書いたお礼の手紙

手紙の書き手となる日本語非母語話者における日本語のレベルは中級程度である。人数は11名で、彼らが書いた11枚の手紙を分析した。テキストの長さは300words前後である。全員が、この手紙を書く前にお礼の手紙の書き方を1時限分(60分)学んだ。

2.2 分析

日本語を非母語話者とする者が書いた手紙の分析には、語彙とテキストの構成の両方を明らかにする為、日本語評価表現(JAppraisal)と Generic Structure Potential (GSP)をそれぞれ使用した。

2.2.1 日本語評価表現

JAppraisalとはMartin & White (2005)らが提案した選択機能言語学の枠組みにおける Appraisal 理論にならい、日本語に応用ができるよう英語 Appraisal 理論の attitude の枠組みを再構築したものである。JAppraisal は岩波国語辞典より評価表現 8,544 件を無作為に収集し、これらの語彙を評価表現の価値基準により分類されている。その後、記述した体系を用いて価値基準の種類の分類情報を付与した評価表現辞書を作成したものである(佐野, 2012)。2011年に言語資源協会より『日本語アプレイザル評価表現辞書—態度評価編—JAppraisal 辞書 ver1.0』が発行されており、これまでブログ(佐野, 2010)や医療言語(佐野, 2011b)等に応用されてきている。まず、JAppraisal 辞書の元となった英語における Appraisal 理論を紹介する。

英語 Appraisal 理論では、最初に attitude、engagement 及び graduation の選択が可能となる。attitude は書き手・話し手が周囲に対して付与する感情や情緒的な価値を表すものに対し、Engagement は書き手・話し手の意見を様々なスタンスにより表現するものである。一方、Graduation は、書き手・話し手が、評価を高めたり低めたりする表現となる(Martin & White, 2005)。図2に以上の3分類を提示する。

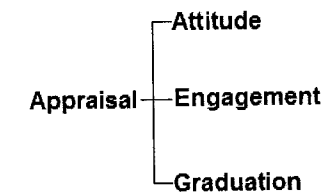


図2: 英語 Appraisal 理論のシステム (Martin & White, 2005)

一方、JAppraisal では英語 Appraisal 理論における attitude に焦点を当て、日本語の評価表現の価値基準を構築したものである。表1は、食品に関する評価表現と価値基準の例である。

表1: 食品に関する評価表現と価値基準例(佐野, 2012: 54)

価値基準	評価極性	
	肯定	否定
おいしさ	a. 「おいしい」をもらった一品	b. ばさばさしていて、まずい
価格	c. とにかく、安い	d. 値段が高すぎる
安全性	e. 無添加で安全	f. 農薬で汚染された可能性がある

表1の上段にあるよう、価値基準を「おいしさ」に置くと、「おいしい」が肯定的な評価となり、「まずい」は否定的な評価となる。次に、価格における価値基準では、「安い」と「高すぎる」が評価において両

[(\langle Placement \rangle ^) Initiating Event^] Sequent Event^ Final Event [\wedge (Finale) ^
(Moral)]

図 4: 英語のおとぎ話における Structure Potential (Hasan, 1996: 54)

図 4 において()で囲まれた要素が任意要素であり、一方何も囲まれていない要素は必須要素となる。語彙文法の要素が他の要素に含まれるかもしれないものは<>で囲まれる。要素間の点「・」は両脇の要素の入れ替えが可能なことを示し、要素間の印「^」は両脇の要素が表出する順番が決まっていることを示す。移動が可能となる要素は[]により移動可能な範囲が決まっている。右から左に向いている円を描いた矢印は要素の反復の可能性を示している (Hasan, 1996: 54-55)。

さらに、必須要素、任意要素の各要素を決定するために、crucial semantic attributes (決定的意味特性)を特定する必要がある。決定的意味特性は 2 種類の nuclear meaning(s)(中心意味)と elaborative meaning(s) (詳細意味)に分けられる。中心意味は属するジャンルに必須となる意味特性であり、一方、詳細意味は表出する可能性がある意味特性である。以上の手順に基づき、お礼の手紙のテキスト構成を分析した。

3. 結果

分析の結果、11 テキスト中 105 個の評価表現が存在し、テキスト構成は 3 つの必須要素に分類された。評価表現では、feature 毎に表出の頻度に違いが見受けられた。それぞれの feature では以下に詳述する。

3.1 JAppraisal

手紙に表出された feature には、11 テキストを通して偏りが見られた。まず、極性においては、「否定」が 19%、「肯定」が 81%となった。「否定」の例としては、「お忙しいところ」の「お忙しい」がある。「肯定」の例では「お陰さまで」を挙げることができる。

「内評価」と「外評価」は同程度で、それぞれ 48%と 52%であった。それぞれの feature の表出頻度を図 5 に示す。

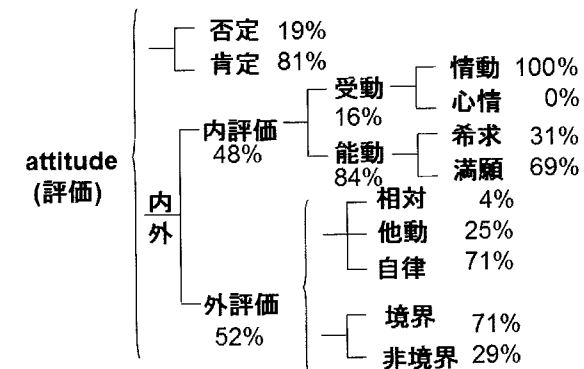


図 5: 各 feature とその表出頻度

「内評価」の分類の内、「受動」と「能動」では、それぞれ 16%と 84%であった。さらに「受動」の分類となる「情動」と「心情」においては「心情」が 100%であった。「心情」の例としては「毎日はとても楽しかったです」の「楽しかった」となる。一方、「能動」の分類となる「希求」と「満願」では、前者が 31%、後者が 69%であった。「希求」の例としては「ご自愛の程お祈り申し上げます」が、また、「満願」の例では「本当にありがとうございました」が挙げられる。

「外評価」となる 2 グループの内、最初のグループ、「相対」、「他動」及び「自律」は「相対」の割合が低く 4%であり、「他動」が 25%、「自律」が一番高い 71%であった。それぞれの例としては、「相対」が「良い経験になりました」の「良い」、「他動」が「いろいろお世話になり」の「世話」、また、「自律」が「お元気でいらっしゃいますか」の「元気」となる。もうひとつのグループ、「境界」と「非境界」は、前者が 71%、後者が 29%であった。「境界」の例では「ご活躍ください」の「活躍」が、又「非境界」の例では「ご多幸をお祈りします」の「多幸」が挙げられる。

3.2 GSP

お礼の手紙 11 通のテキスト構成の結果を示す。テキストの構成は 3 つの要素に分けることができた。Establishment(前文)、Gratitude(本文)と Sign Off(末文)である。お礼の手紙の例、11 テキストでは、すべての要素が表出したので、3 要素とも必須要素となる。また、表出の順序は Establishment(前文)、Gratitude(本文)と Sign Off(末文)の順であった。図 6 にお礼の手紙の GSP を提示する。

Establishment(前文) ^ Gratitude(本文) ^ Sing Off(末文)

図 6: 日本語のお礼手紙における Structure Potential

それぞれの必須要素では、その要素を特定するための意味特性が存在した。Establishment(前文)では、手紙の始まる時候の挨拶に代表されるように、「オープニング」と、読み手の現状を察する意味要素「察し」が見られた。さらに、Gratitude(本文)では滞在中のお礼と見られる意味特性をもつ「謝意」と滞在中の思い出を表す意味特性をもつ「回想」が存在する。手紙の終わりにあたる Sign Off(末文)では、読み手の今後を慮る「配慮」と別れの言葉を告げる「終辞」、最後に自分の名を名乗る「記名」という意味特性が表出した。いずれの場合も 11 テキスト全てに見受けられたので、決定的意味特性といえる。以上を図 7 にまとめる。

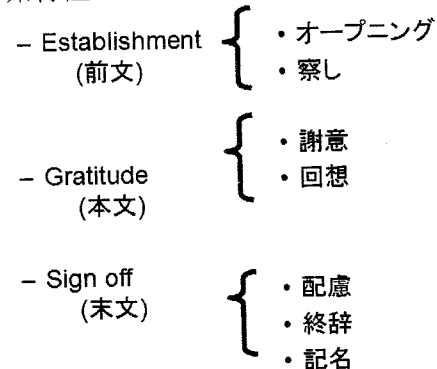


図 7: 3つの必須要素と必須要素の意味特性

このように、それぞれの必須要素にも決定的意味特性が見受けられた。

4. 考察

日本語のお礼の手紙の書き手となる日本語学習者は、前もって手紙の書き方を学習しているので、似通った語彙とテキスト構成がデータを通じて見受けられた。例えば「否定」に分類される「お忙しい中」は Establishment(前文)の中で見受けられた。そのような手紙に特有な表現を除けば、「肯定」が殆どで、学習者の研修に対する肯定的な態度を確認することができた。

「内評価」と「外評価」は、ほぼ同程度で現れたので、書き手は「内評価」に見られる感情表現：感謝や楽しさと、「外評価」に見られる経験に対する価値の付与を手紙に取り混ぜてしていると解釈することができる。

「内評価」における分類では「受動」と「能動」があったが、「能動」の頻度ははるかに多かった。これは、留学中、学習者が自ら進んで研修やアクティビティに参加したことを表していると思われる。また、

「受動」における分類では「情動」は全く表出せず、「心情」のみが表出した。「心情」は出来事を基準とした評価者の嬉しさや楽しさ、感動、怒り、悲しみ等であるので、極性の「肯定」の多さと相まって、滞在中に対する自らの肯定的な心情を多く表現していることがわかった。もう一方の選択肢である「情動」は例がなかったのも、「情動」に分類される

安心や安堵といったような評価者の心の状態を表す語彙の使用を学習者に促す指導法も提案できる。

「内評価」のもう一方の分類、「能動」の細分類となる「希求」及び「満願」では、「満願」が「希求」の倍以上表出されていた。「満願」は目的の達成度や満足度を示す評価基準であるので、「満願」の表出頻度の多さに、学習者が留学の満足度を上手に表現していることが見受けられる。

「外評価」では分類が 2 つのグループになるが、1 つ目のグループにおける分類となる「相対」、「他動」及び「自律」では、「自律」の割合が多く占めた。「自律」に分類される評価基準としては、評価対象への個の基準が表されるのだが、Establishment(前文)の「察し」に多く見られ、「お元気でいらっしゃいますか」の「元気」といった例が挙げられる。この表現は、既に学習した手紙のフォーマットを参考にしている表現だと思われる。同様な表出が Sign Off(末文)でも見受けられた。Sign Off(末文)の要素中に多く見られた表現のとして、「ご活躍ください」や「ご多幸をお祈りします」という表現が見受けられた。これらは、「ご活躍」は「外評価」の分類「境界」に分類され、「ご多幸」は、同じく「外評価」の「非境界」に分類される。これらの語彙は Sign Off(末文)における意味特性のひとつである「配慮」内のみ存在したことから、手紙の書き手が、既に学習したの手紙のフォーマットを参考にしたものとおもわれる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、非母語話者が書いた日本語のお礼の手紙を語彙とテキスト構成の観点から分析した。お礼の手紙の語彙をテキスト構成要素毎に見ることで、各要素の特徴と学習者の留学生活に対する評価を知ることができた。書き手が既に授業を通じてお礼の手紙の書き方を学習していたので、テキスト構成は差が見られなかったものの、テキストの構成要素を決定する意味特性ではさまざまな語彙が使用された。一方で、全く使用されていない評価基準ももあったので、日本語を指導するにあたり、その評価基準に分類される語彙を集中的に増やすことで、学習者の日本語能力の向上に役立つと思われる。

今回は、パイロット研究で、『日本語アプレイザル評価表現辞書—態度評価編—JAppraisal 辞書 ver1.0』を使用しテキストを分析したが、今後は、テキスト数を増やしていきながら、お礼の手紙に使用される敬語や過程を検討し GSP を詳しく検討する。日本人母語話者が書く同様の手紙と比較し、どのような違いが見られるかを検討するとともに、最終的には日本語の非母語話者の学習指導に繋がるようにしたい。

参考文献

- Hasan, R. (1985a) 'The structure of a text'. In M. A. K. Halliday & R. Hasan (Eds.), *Language, Context, and Text: Aspects of Language in a Social-Semiotic Perspective* 52-69. Waurin Ponds, Vic.: Deakin University.
- Hasan, R. (1996a) 'The Nursery Tale as a Genre'. In C. Cloran, D. Butt & G. Williams (eds.), *Ways of Saying, Ways of Meaning: Selected Papers of Ruqaiya Hasan*. London & New York: Cassell.
- Hood, S. (2004). 'Managing attitude in undergraduate academic writing; a focus on the introductions to research reports'. In L. J. Ravelli & R. A. Ellis (eds.), *Analysing academic writing: contextualized frameworks* 24-44. London & New York: Continuum.
- 李桂芳 (2005) 「台湾人日本語学習者による依頼の手紙の文章構造の問題—文の機能に基づく分析—」『早稲田大学大学院日本語教育研究科』15: 137-152.
- Martin, J. R. and White, P.R.R. (2005) *The Language of Evaluation: Appraisal in English*. New York: Palgrave Macmillan.
- 佐野大樹 (2010) 「ブログにおける評価表現の使い分けの特徴—アプレイザル理論からみた評価基準と表現の直接性／間接性の関係—」『計量国語学』27(7): 249-269.
- 佐野大樹 (2011a) 『日本語アプレイザル評価表現辞書—態度評価編—JAppraisal 辞書ver1.0』東京: 言語資源協会発行.
- 佐野大樹 (2011b) 「日本語アプレイザル評価表現辞書 (態度表現編)」の構築—評価の多様性を捉えるための言語資源の開発—『言語処理学会 第17回年次大会 発表論文集』115-118.
- 佐野大樹 (2012) 「アプレイザル理論を基底とした評価表現の分類と辞書の構築」『国立国語研究所論集』3: 53-83.
- 宇佐美洋 (2010) 「文章評価観点に基づく評価者グルーピングの試み—学習者が書いた日本語手紙文を対象として」『日本語教育』147: 112-119.